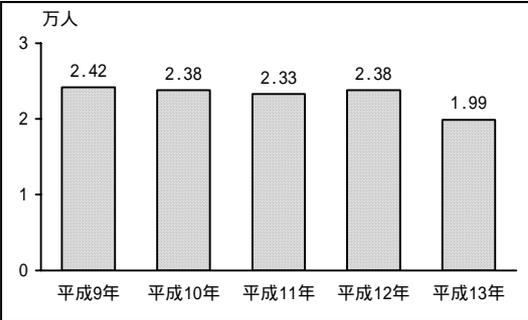


(2)旧海軍司令部壕（海軍壕公園内）

ア 概要

沿革	太平洋戦争時の昭和19年に広大な壕が掘りめぐらされて、その中に、海軍司令部が置かれ、沖縄戦末期には、約4,000人の将校が玉砕した場所である。戦後の昭和33年にこの地に沖縄海軍友の会によって『海軍戦没者慰霊の塔』が建設された。昭和45年には、沖縄観光開発公社によって管理事務所や資料館、売店が置かれ、壕内の公開が始まった。現在は、(財)沖縄観光コンベンションビューローが管理運営を行っている。地上の公園部分については、県都市計画課公園緑地係が維持管理をしている。												
休館日	年中無休												
開館時間	8:00～17:00												
入館料	【個人】大人420円、小人210円 【団体】大人380円、小人180円												
入場者数	過去5年の入場者数は以下の表のとおり 過去5年間の入場者数をみると22～23万人で安定的に推移している。平成13年の減少については、アメリカ同時多発テロの発生を受けて、修学旅行の取りやめが相次いだことによる。  <table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>入場者数(万人)</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成9年</td><td>2.42</td></tr><tr><td>平成10年</td><td>2.38</td></tr><tr><td>平成11年</td><td>2.33</td></tr><tr><td>平成12年</td><td>2.38</td></tr><tr><td>平成13年</td><td>1.99</td></tr></tbody></table>	年度	入場者数(万人)	平成9年	2.42	平成10年	2.38	平成11年	2.33	平成12年	2.38	平成13年	1.99
年度	入場者数(万人)												
平成9年	2.42												
平成10年	2.38												
平成11年	2.33												
平成12年	2.38												
平成13年	1.99												
来館者の属性	20数万人の入場者のうち、3万2千程度が修学旅行生となっている。その他には、50代以上の個人客が多い。												
ガイド	ボランティアを含めガイドなどは特においていない。壕内は1回5分程度の解説テープを流している。団体によっては、バスガイドが説明をする場合がある。												

イ 内容

資料館

資料館には、遺族の方から寄贈された遺品を展示している。学芸員はおいていない。資料館内の滞留時間は、一般的には30分だが、中・高校の修学旅行生は、5～10分程度。

壕内見取り図及び順路



左上写真は壕入口、左下写真は壕出口。現在の順路は、壕見学後ビジターセンターへ誘導するルートとなっているが、将来的には現在の出口側を入口にし入壕前に資料館を見学する順路に変更予定

資料館内部



【資料館入り口】最後の司令官であった大田少将の写真と沖縄県民の作戦協力について海軍次官宛に送った電報の印刷パネルが設置されている。



【資料館内部】壁面全体を利用し、沖縄戦を解説している。また、中央部には遺品を展示している。



【資料館内展示1】壁面の展示。写真パネルと解説が中心。日本兵の死体写真(顔入り)などもあり、見学者から批判を受けることもある。



【資料館展示2】映像・音響設備は、アメリカ軍が撮影した当時の沖縄戦の映像(無音)を流しているテレビ1台のみ。

資料館		<p>【資料展示3】壕の掘削に使ったつるはしや生活用品を展示。</p>
壕内部	 <p>【壕内部1】出口へ続く階段には手すりを設置している。</p>  <p>【壕内の展示1】当時の状況を描いた絵とともに公開している。立入り禁止</p>	 <p>【壕内部2】照影設備をきちんと整備しているため、中はかなり明るい。また、壕内部は、コンクリートで固められており、当時の状況とはかけ離れている。</p>  <p>【壕内の展示2】壕内廊下の一部を展示スペースに利用。写真及びその解説。</p>
駐車場	<p>海軍壕公園の駐車場バス12台タクシー15台普通車30台</p>  	
安全対策	<p>定期点検(1回/月): 打音検査等簡単な調査。1回2万円程度 総合点検(1回/5年): コンクリートの抜き出し等重点調査。1回400~500万円 その他、壕内の一部の補強対策をしている。</p>	

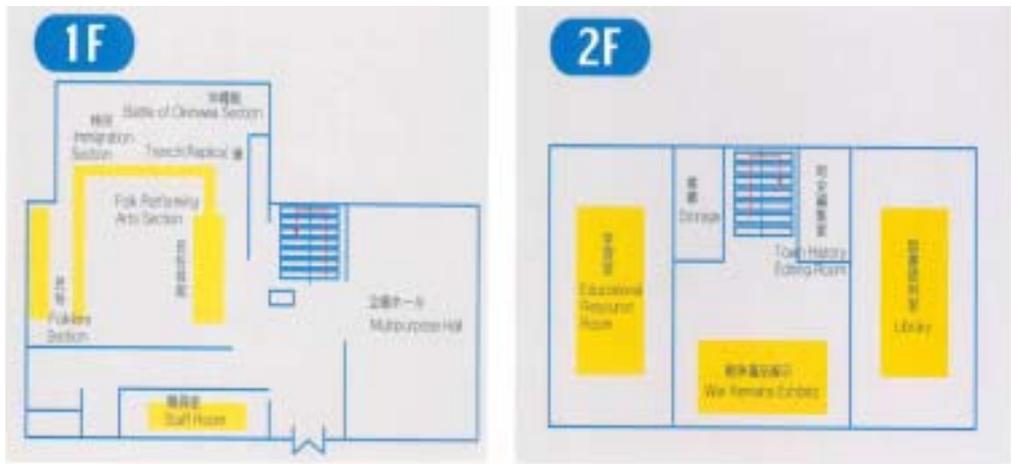
観光と学習	沖縄県観光開発公社が集客のために整備してきたものであるため、壕内の形状や照明の明るさなどは観光客に配慮されている。その一方で、地元では、住民を迫害した旧日本軍の施設という意識が強く、素直に受け入れられていない。平和学習拠点というよりも、観光施設としての側面が強い。
課題	戦争の事実がなかなか伝わらない。今後、戦争の悲惨さを感じてもらえるよう施設管理や運営上の工夫が必要。 安全対策は配慮されているが、より一層安全対策には徹底をはかる。

(3)南風原文化センター

ア 概要

沿革	昭和50年代に病院壕のある黄金森の山を公園整備する計画があり、その際に行われた各字毎の戦災調査を契機に、町民が調べた壕や戦争の遺留品などの資料が収集された。それらを展示する目的で、平成元年に町立施設として開館した。建物は旧給食センターの建物を利用。常設展示室では「南風原と沖縄戦」の他に「移民」、「民俗芸能」のコーナーがある。
休館日	水曜日
開館時間	10:00～18:00
入館料	無料
入場者数	約2万～3万人（入館料は無料であるため、正確な統計はとっていない）
来館者の属性	8割の方が県外の方である。修学旅行や労働組合の研修のほか、タクシーに案内された個人客などがある。
ガイド	ボランティアを含めガイドなどは特においていない。但し、その場で依頼を受ければ、学芸員がガイドをする事もある。

イ 内容

資料館	<p>資料館は2階建ての建物である。展示資料は、南風原陸軍病院壕内部で発見されたもの及び個人の方からの寄付によるものが中心。他には、平和学習の成果として地元の高校生が作成した資料やジオラマが展示されている。学芸員が4名在籍しており、企画展など積極的に開催している</p> <p>資料館見取り図</p>  <p>The floor plan shows two levels. The 1st floor (1F) includes the Battle of Okinawa Section, Peace Memorial Section, Folk Artwork Art Section, Folk Artwork Section, and a Multipurpose Hall. The 2nd floor (2F) includes an Education Resource Room, a Library, and a We Remember Center. A central staircase connects the two floors.</p>
-----	---

<p>資料館</p>	<p>センター内写真</p>  <p>【センター入口】入口を入ると沖縄を中心に日本列島が逆さに描いてあるタイル床を見る事になる。沖縄と世界との距離を知ってもらう事と本土の人に視点を変えて見てもらうという目的がある。</p>  <p>【“南風原と沖縄戦”の入口】病院壕の入口を再現している。実際に病院壕内部から発見された医療器具などを展示している。</p>  <p>【展示内容1】病院壕の内部を再現している。全て学芸員及び地元の学生による手作り。</p>  <p>【展示内容2】実際に病院壕内部から発見された医療器具などを展示している。</p>  <p>【展示内容3】病院壕のジオラマを抜けると沖縄戦の資料が展示されている。実際の品物とそれを紹介する新聞記事がてんじされている。</p>  <p>【展示内容4】沖縄戦で死亡した南風原出身者の数を示す顔写真。地元の高校生が平和学習の成果として作成。単なる数字ではなく人の写真で表現することにより、戦争の実態を感じさせる狙いがある。</p>
<p>駐車場</p>	<p>駐車場無。隣接する役場の駐車場を利用している。</p>
<p>学習施設</p>	<p>学習施設としては、2階に図書・資料室がある。地元の小・中・高校生に利用されている。</p>
<p>観光と平和学習</p>	<p>地元の高校生による聞き取り調査から発展して整備された施設であるため、県内外から人を呼ぶ観光的側面よりも、平和学習の側面が強い施設である。展示は決してきれいではないが、熱心な平和学習・運動の取組の成果が、良くあらわれた展示になっている。また、年に8回も企画展を開くなど学芸員も熱心な取組みをみせている。</p>

観光と平和学習	施設の老朽化により、移転新築が予定され、その施設を基点に黄金森に民俗コース、自然観察コース、平和学習コースを整備し、山全体を博物館として整備する予定となっている。
壕内の公開と安全対策	<p>現在、12か所の壕が発見されており、うち、2か所を貫通させ、見学コースを設定し、人を入れる予定である。公開の是非については、整備検討委員会で検討され、戦争遺跡は実際に体験してもらって初めて意味のあるものだという理由から公開の方向で動いている。</p> <p>安全対策としては、色々な方法を検討した結果、通路天井と両側面を擬木で結び、それを等間隔ではめていく方法を採用する予定である。</p>

(4) ひめゆり平和祈念資料館

ア 概要

沿革	<p>太平洋戦争末期の沖縄戦において、多くの犠牲を出したひめゆり（県女子師範学校・県立第一高女が中心）学徒隊の生き残りの人たちが中心となって、平成元年の6月23日（沖縄慰霊の日）に開館。資料館建設に当たっては、ガマの公開をめぐる様々な論争があったが、結局、ガマの公開は認められず現在の地に建設される。</p> <p>開館以来順調に来館者を増やし、平成4年には、講話や展示、VTR設備を備えた多目的ホール（200名）を増築するに至っている。</p> <p>また、平和に関する様々な業績がみとめられ、平成2年には沖縄タイムス文化賞、平成4年には菊池寛賞を受賞するなどしている。</p> <p>国連発行の「世界平和博物館」にも掲載されている。</p>												
休館日	年中無休												
開館時間	9:00～17:00												
入館料	<p>【個人】大人 300円、高校生200円、小中学生100円</p> <p>【団体】20名以上10%割引</p>												
入場者数	<p>過去5年の入場者数は以下の表のとおり。過去5年間の入場者数をみると88万人～100万人で安定的に推移している。平成13年の減少については、アメリカ同時多発テロの発生を受けて、修学旅行の取りやめが相次いだことによる。</p> <div data-bbox="584 1207 1115 1529" style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <caption>過去5年の入場者数（万人）</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>入場者数（万人）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成9年</td> <td>88.7</td> </tr> <tr> <td>平成10年</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>平成11年</td> <td>100.6</td> </tr> <tr> <td>平成12年</td> <td>91.8</td> </tr> <tr> <td>平成13年</td> <td>75.8</td> </tr> </tbody> </table> </div>	年度	入場者数（万人）	平成9年	88.7	平成10年	91	平成11年	100.6	平成12年	91.8	平成13年	75.8
年度	入場者数（万人）												
平成9年	88.7												
平成10年	91												
平成11年	100.6												
平成12年	91.8												
平成13年	75.8												
来館者の属性	<p>個人と団体の割合は65：35となっている。</p> <p>団体の内訳は大人40%、高校生42%、小中学生18%となっている。学生の地域別入館者数は小学校で沖縄68%、九州14%、関東13%、以下近畿、中国が各2%となっている。中学校では、近畿34%、九州25%、中国20%、四国12%、以下関東、東北各2%、東海1%となっている。高校では、関東45%、信越、東海各11%、近畿9%、東北8%、四国6%以下各地方数%程度となっている。</p>												
駐車場	<p>一応あるが、接続する土産物屋や食堂に停める人が多い。団体客は観光バスを停めさせてもらう代わりに食事をそこで取るようにしていることもある。</p>												

イ 内容

資料館	資料館は特別展示室を入ると6室ある。第1展示室では沖縄戦の前の時代を、第2展示室は南風原陸軍病院をテーマに、第3展示室は南部撤退をテーマに、第4展示室では鎮魂をテーマに、第5展示室は回想をテーマに今までの展示について考えてもらうスペースとなっている。特別展示室は、当時のひめゆりの学園生活についての資料が展示されている。(詳細は下示パンフレット参照)
語り部	資料館内には基本的に語り部の方が常駐している。語り部の方は、ひめゆり学徒隊の中から幸運にも生き残られた方々で現在16名で交代で活動をしている。 一方的に話すのではなく、展示の前で、見学者の質問に答えながら、当時の状況、経験を話している。当時を経験した人の生の話ということで皆真剣に話を聞いている。また、感想文の反応をみて、語り部の方々もその意義を再認識している。 また、館内でお話をするだけでなく、依頼を受ければ、宿泊先のホテルなどに出向いて話をすることもある。
観光と平和学習	資料館は、戦争を知らない世代が過半数を超え、戦争体験が風化しつつある今日に戦争体験を語り継ぎ、戦争の実相を訴え続けることで、尊い命を失った生徒や職員の鎮魂となることを信じ、それを目的として開館した。そういう意味では、観光施設というより平和教育・平和学習施設の側面が強い。しかし、好むと好まざるとに関わらず、多くの人々が訪れ、周りにはお土産屋が建ち並び、観光地化されてしまっている。 本来、鎮魂の部屋であるべき第4展示室には、修学旅行生の歓声が入り乱れ、とても心を落ち着いて見学することが出来ない状態となっている。
課題	やがて消えゆく語り部の方々の証言をいかに記録、公開させていくべきか。周辺地域の観光地化に対してどう折り合いをつけていくのか。

第一展示室 (沖縄戦前)
「沖縄への進軍と戦前」「皇国化教育と高等学校」そして東洋を舞台にした戦争の状況下で、与那国ひめゆり学徒隊が急速に展開された。戦況が激変する中、戦況が激変されていくまでを伝えている。
同時に「誰で、どこに」大規模な沖縄戦と太平洋戦争の歴史の中で展示されている。

第二展示室 (南風原陸軍病院)
南風原陸軍病院のトンネルをくぐってこの展示室に入ると、そこは静かな空間。
当時の状況が再現されている。展示室は、戦時体制下で完成された、戦時体制下の展示室。これを中心に当時の沖縄の戦況、南風原陸軍病院の歴史、戦時体制下の教育、資料館が提供する中心のひめゆり学徒隊の歴史を伝えている。

第三展示室 (南部撤退と鎮魂の歩み)
南風原の戦後、南風原陸軍病院ともの分業の歴史とつながりながら、同時にひめゆり学徒隊の歴史と歩みも伝えている。
—フィート— 展示フィルムから選出したビデオと資料館の歴史の映像のLED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。

第四展示室 (鎮魂)
ここでは、ひめゆり学徒隊の鎮魂の場である。この展示室には、戦時体制下の歴史と歩みとそれぞれの歴史が伝えている。
—フィート— 展示フィルムから選出したビデオと資料館の歴史の映像のLED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。

第五展示室 (回想)
展示室に入ると美しい空間、1945年と美しい花壇が飾りつけられる。展示室は、戦時体制下の歴史と歩みとそれぞれの歴史が伝えている。
—フィート— 展示フィルムから選出したビデオと資料館の歴史の映像のLED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。

特別展示室 (ひめゆりの青春)
この展示室には、当時の学園生活の資料が展示されている。
—フィート— 展示フィルムから選出したビデオと資料館の歴史の映像のLED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。

多目的ホール
「ホール」ひめゆり学徒隊の歴史と歩みとそれぞれの歴史が伝えている。
—フィート— 展示フィルムから選出したビデオと資料館の歴史の映像のLED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。LED装置で、日々開館の歴史を伝える。

(5) 沖縄県平和祈念資料館

ア 概要

<p>沿革</p>	<p>昭和50年に沖縄戦について学び、平和について考える事を目的に県立平和祈念資料館が開館した。その後、施設の老朽化及び本土からの修学旅行生の受け皿として機能的に不足をきたしてきたことなどから、平成12年現施設に移転改築した。施設は、平和祈念公園の中心部に位置し、“摩文仁の丘”や“平和の礎”などの平和施設と一体となって沖縄の平和拠点を構成している。</p>  <p>摩文仁の丘から資料館を望む</p> 
<p>休館日</p>	<p>月曜日、年末年始</p>
<p>開館時間</p>	<p>9:00～17:00</p>
<p>入館料</p>	<p>【個人】大人300円、小人150円 障害者については無料 【団体】20名以上 大人240円、小人100円</p>
<p>駐車場</p>	<p>公園駐車場バス20台、タクシー38台、普通車360台</p>
<p>入場者数</p>	<p>平成13年度 33万6千人 平成14年度 30万5千人(12月現在) 平成13年度はアメリカの同時多発テロにより、秋以降旅行者が減少したが、今年度は回復している。月平均3万4千人の入館者がある。</p>
<p>入館者の属性</p>	<p>〔個人と団体〕平成13年度40:60、平成14年度32:68 〔大人と小人〕平成13年度55:45、平成14年度37:63</p>

イ 内容

資料館

1階部分と2階部分とからなる。

1階部分は“未来を展望する”ゾーンとして無料で開放されている。対象は主に児童・生徒であり、未来を担う子どもたちが積極的に平和を愛する心を育むために3つのテーマで展示がなされている。

第1は様々な国の子ども達の学校の様子や遊びの事を紹介する展示。第2は、今現在地球上でおこっている紛争や戦争、環境破壊を紹介する展示。これは、その原因や解決策を考えてもらうことを目的としている。第3は、遊びを通して多様性と共通性に気づき、異文化を認め合う場所として機能することを目的に実際に物に触れられる展示をしている。

さらに、観覧後の疑問を調べるための情報ライブラリーが整備されている。



2階部分は“歴史を体験する”ゾーンとして有料観覧となっている。来館者が沖縄の歴史を体験して平和の尊さや戦争の悲惨さを知り、将来の継承してもらう狙いがある。

全部で5つの展示室の分けられており、それぞれ“沖縄戦への道”、“住民から見た沖縄戦 - 鉄の暴風 - ”、“住民から見た沖縄戦 - 地獄の戦場 - ”、“住民から見た沖縄戦 - 証言 - ”、“太平洋の要石”をテーマに映像やジオラマを使って戦争の悲惨さを訴えている。



<p>資料館</p>	
<p>ガイド</p>	<p>館内ガイドについては、配置していない。但し、依頼があった時は、学芸員が対応することもある。</p> <p>また、語り部などの依頼があるときは、7つあるボランティア団体のリストを紹介している。(個別の団体は紹介していない)</p>
<p>観光と学習</p>	<p>“摩文仁の丘”や“平和の礎”と一体となって沖縄の平和拠点となっていることもあり、慰霊目的の人や修学旅行、観光客など幅広い層の入館がある。駐車場やトイレ、案内板などもよく整備され、観光施設としての受け皿の機能も十分備えている。</p> <p>その一方で、1階の無料施設は地元沖縄の小・中学生に活用されており、地元の平和学習にも貢献する施設となっている。</p> <p>観光的側面があることは事実だが、平和学習機能を十分果たしている施設といえる。</p>

